

善光寺だより……………

歳末助け合いの托鉢

師走に入った一日、横浜市港南区日野町の善光寺（黒田武志住職）ではお坊さんと檀家の人たち十八人が「歳末助け合い募金托鉢」をした。お寺のある日野町を午後一時に出発して京浜急行上大岡駅から弘明寺駅にかけて往復十数キロの道を約四時間かけて街道筋の商店や民家をたずねた。同寺は昨年新しい本堂（釈迦殿）が落成し、その記念に「社会の人たちになにか手を差し伸べられれば……」と助け合いの託針を計画したという。

道中では通りがかった子ども連れ



（朝日新聞）

のお母さんや年配の人たちが心よく喜捨に応じ「ご苦労さま」「頑張ってください」と激励した。午後五時まで約二千軒を回り、合計十四万三千九百八十七円の浄財が集まったが、同寺では市を通じて寄付するという。

節分のみまき

今日は太陽暦を使っているのだから、節分は旧暦の晦日。新しい年を迎えるにあたり、除災招福を祈るのは人情の自然で、昔から追儺の厄払いがおこなわれて来た。それに民間の農繁行事である豆まきに加わって今日の節分会となったのである。

善光寺では十一時より不動殿において節分祈禱会。引続き年男、年女及び厄年当りの人二十一名を中心に、大にぎわいのうちに豆まきをおこなった。終って清興として、テレビでお馴染みの三浦ひろしさん（檀家）のマジックに参列者一同興じ、なごやかな昼食を囲んでたのしい一日を過ごした。



早朝坐禪に参加して

横浜栄光院一級 石川裕子11才

朝の5時半に起き、道着に着がえた。今日は善光寺で早朝ざぜんなので。15分くらいたつと足がしびれてきました。ときどき、方丈さんの声が、ものすごく大きくきこえまし

た。前の方で、背中をたたかれる人がいました。私はその音を聞くのがこわくなりませんでした。ときどき私のうしろを方丈さんが通りました。その時、いつも私はきんちょう



しました。だって、ぶたれたら大へんだからです。とても足が痛かったけれども一生けん命やりました。鐘の音がなりました。そして手をひざの上のせて大きく体を左右にふりました。私は45分間がまんができたのです。私は、がまんの道を一歩すすんだのです。

これからも、うーんとがまんをして、早くがまんの道をぬけたいです。
お便りから

『成寿』拝読致しました。先づ

三十一頁、及び三十四頁の御住職の笑顔の写真を拝見し「オヤツツ」と思う、今迄とは違ったものを強烈に感得しました。「此の方は完成を目指して居られるな」という思いなのでしょうか。それはこれ迄に幾度